中　学　校

平成２４年度

教育研究員研究報告書

総合的な学習の時間

東京都教育委員会

目　　次

Ⅰ　主題設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

Ⅱ　研究の視点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

Ⅲ　研究の仮説・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
　１　研究仮説の設定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
　２　本部会における定義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
　３　研究構想図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

Ⅳ　研究の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

Ⅴ　研究の内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
　　１　地域社会との関わりを通して、生きる力を育む指導計画の工夫・・・・5
　　２　実態調査Ⅰ　「防災と地域社会」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
　　３　実態調査Ⅱ　「総合的な学習の時間」・・・・・・・・・・・・・・・・・１１
　　４　学習計画の工夫・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５
　　５　検証授業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６

Ⅵ　研究の成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４

研究主題

地域社会との関わりを通して、生きる力を育む指導の工夫

～自己の生き方について考えさせる探究的な学習～

Ⅰ　主題設定の理由

２１世紀の学校教育の課題として、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和を重視する「生きる力」を育むことが引き続き重要とされている。

一方で、ＯＥＣＤ（経済協力開発機構）のＰＩＳＡの調査（平成２１年）などの各種調査から、日本の児童・生徒には、改善はみられるものの「思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式問題、知識・技能を活用する力」や「自分への自信の欠如や自らの将来への不安、体力の低下」といった課題が指摘されている。

これらの課題の背景には、家庭や地域の教育力の低下、交流の場、自然体験の機会の減少による、生活習慣や学習習慣の確立といった問題がある。

こうした背景を受けて、学校で身に付ける「力」として、「基礎的・基本的な知識・技能の習得」「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の育成」「主体的に学習に取り組む態度」の３要素が学校教育法改正（平成１９年６月）により明確化された。これらは、新しい学習指導要領の改訂の指針として、今年度より全国の中学校で全面実施とされた。

今回の改訂にあたり、「総合的な学習の時間」が総則から取り出され、新たな章として位置付けられたのは、教科の枠を超えた横断的・総合的な学習、探究的な活動を行い、思考力・判断力・表現力を育てると同時に、コミュニケーション能力や課題解決能力といった力を身に付けさせるねらいがある。この「力」は、知識基盤社会・グローバル化などの社会変化の激しい現代に対応できる力、つまり「生きる力」となり、これが身に付くことで、自分に自信をもち、主体的に判断し、よりよく問題を解決することができるようになる。

本研究では、「総合的な学習の時間」を通して、この「生きる力」の向上に有効と考えられるある学校の取組に着目する。この学校においては地域の教育資源として豊富に存在している「自然・伝統・文化・地域の歴史」から、全ての学年において生徒が課題を設定し、調査・検証を行い、解決に導くことで課題解決能力の向上を図っている。また、地域の人々との積極的な関わりを設定し、ゲストティーチャーやインタビューなどに協力していただくことにより、生徒のコミュニケーション能力の向上に努めている。さらに、まとめや発表の取組を通して、生徒の思考力、判断力、表現力を高める指導を行っている。

しかし、このような環境に恵まれた学校は、多くはない。本部会では、この学校の取組を参考に、どの学校でも実践できる「地域社会との関わり」をテーマとし、総合的な学習の時間の目標に示されている、「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断・行動し、よりよく問題を解決する資質や能力」を育てたいと考えた。

以上のことから、本研究では様々な関わりあいから、生徒の生きる力を育むとともに、自分に自信をもち、社会との関わりの中で自己の生き方を考えさせる指導の工夫を主題とした。

Ⅱ　研究の視点

現在、各学校においては、学習指導要領の総合的な学習の時間の目標に示された五つの要素を基盤に、各学校での目標を定め、創意工夫を凝らした学習活動を展開している。また、各学校には、地域や学校の実態等の様々な特性があり、総合的な学習の時間の実践に当たっては、その特性を生かすよう工夫・改善を図っている。

本研究においては、効果的な「総合的な学習の時間」を行っている学校の実践を基に研究を進めた。

地域の実態：自然環境（山、川、海、農地、動物、植物等）、産業、工業、商店街、祭り、食、文化、住民構成、家族構成、居住環境、開発状況など
学校の実態：学校・学級の雰囲気、伝統、校舎や校地の状況、教職員の構成など

【大島町立第二中学校の取組】

学習の目標

①　大島の自然・歴史・産業・文化などについて、体験的な活動を中心に学習し、興味･関心や疑問をもつとともに、郷土に対する理解と愛着心や誇りをもとう。
②　調査・研究を通して、見通しをもち、課題解決能力や科学的思考を育てよう。
③　研究・発表活動を通じて、自主性やコミュニケーション能力を養い、互いが協力することを学ぼう。
④　学習内容を地域や都に発信し課題提起することで、社会に参画する気持ちや自信をもとう。

研究活動の目安

第一期学習活動　「研究テーマの検討・決定」　６月　６日～　６月１６日（　４ｈ）
○自分の興味・関心・疑問から出発する。
○やりごたえがあり、深化・発展できる課題を選ぶ。
○地域性を生かし、体験的な学習が可能なものとする。

第二期学習活動　「研究・調査活動計画」　６月１６日～　７月１４日（　４ｈ）
○研究活動の見通しをもつ。
○課題解決のための方法として、調査や実験、体験の方法を吟味する。
○資料、調査場所、実験、機材、役割分担などを考える。
○現地調査の日程はできるだけこの時期に見当を付ける。

第三期学習活動　「現地調査・研究活動」　７月１５日～１１月　２日（１９ｈ）
○何をどのように調べ深めていくかを常に忘れずに研究を進める。
○仮説・考察・検証といった科学的思考を大切にし、取り入れる。
○仮説の再構築や再調査をいとわず、追究心・探究心を大切にする。
○資料を活用しつつも、疑問や発想力を大切にし、客観的な検証を行う。

第四期学習活動　「まとめ・発表練習」　１１月　４日～１１月１８日（１８ｈ）
○読んでもらう、聞いてもらう、伝えるということを意識してまとめる。
○まとめの活動や発表原稿の作成を通して、自分たちの研究を概観するため、各自がまとめた内容を確認し合う。
○分かりやすく効果的で説得力のある発表の技術を身に付ける。

第五期学習活動　「発表・講評」　１１月１８日、１９日、２２日（　４ｈ）
○班員が協力し効果的な発表を目指すとともに、時間配分や効果的なプレゼンテーションの技術を体験的に身に付ける。
○他の班の発表を聞き、それぞれの学習成果を共有する。
○他の班の発表を講評することを通して、情報やメディアに対する判断力を養う。
○講評を基に、自分たちの学習活動を振り返る。

学校の特性を生かし、生徒が身の回りの様々な事象に焦点を当てた探究的な学習を行うこと、その学習に対して主体的に取り組むこと、日常生活や社会との関わりの視点から学習をまとめて発表することは、総合的な学習の時間の特質及び目指すところそのものであり、どの学校においても本来実践していくものである。

本研究では「地域社会との関わりに着目し、様々な学校で取組める探究的な学習」を意識し、総合的な学習の時間の指導内容や指導法の工夫を行った。

Ⅲ　研究の仮説

1　研究仮説の設定

本研究を進めるに当たり、基礎研究、調査研究を基に、次のように仮説を設定した。

> 【研究仮説】
> 地域の人と関わり、日常生活や地域社会の事象についての探究的な学習をすれば、学び方やものの考え方を効果的に身に付けることができ、自分の可能性に気付き、社会とどう関わって生きていくかを考える力が身に付くであろう。

2　本部会における定義

（1）「地域の人との関わり」について

「地域の人との関わり」＝「協同的な学び」と捉えた。ここで示す地域の人とは、保護者はもちろん、地域で働く人々や居住する人々、行政に関わる人々と言った地域人材のことである。総合的な学習の時間において、時には学級や学年の壁を越える場面を設け、協同的な学習を充実させることが大切である。そうすることで、効果的な情報共有の手段を考えることや、得た情報を様々な視点から検討することができ、集団が個人の力を伸長させていくことにつながる。また、自分の学習活動を振り返り、考えを深めることは、社会に参画したり貢献したりする資質や能力及び態度や責任感の育成につながる。このように、「地域の人と関わる探究的な学習」を協同的に行うことは、個人の学習の質を高めるために有効であると考えた。

（2）「考える力」について

「社会とどう関わって生きていくかを考える」＝「自己の生き方を考える」と捉えた。社会との関わり方を考えるためには、学ぶことの意味や価値について考え、それを自己の生活の中で実践していこうとする態度を身に付けていくことが大切である。

総合的な学習の時間の中で、横断的・探究的な学習を行い、協同的に学習させることで、様々な資質や能力及び態度を育てていくことが大切である。この学習過程における調査やインタビューなどの結果から得られる考察や、人とのコミュニケーションにより、様々な「考える力」を育成することができる。ここで学習し、身に付けた力は、中学校を卒業した後に、自分の人生を充実させる生き方するための基盤となる。この基盤を常に強固なものにし、社会生活で活用していくためには、考える力が重要であると考えた。

3　研究構想図

生徒の実態
・人間関係形成が困難かつ不得手
・学習や将来の生活に対して無気力、不安を感じている生徒の増加
・学習意欲や粘り強く課題に取り組む態度に個人差がある

学校の現状
・各教科と総合的な学習の時間との適切な役割分担と連携が図られていない
・課題解決的な学習と探究的な学習との間の円滑な接続が十分とはいえない
・学校と地域との連携体制の構築が必要

社会背景
・家庭や地域の教育力の低下
・交流の場、自然体験、生活体験の減少

他者と関わり、自己の生き方について考えさせることが必要
・コミュニケーション能力の育成
・教育活動における探究的な学習の取り入れ

「研究主題」

地域社会との関わりを通して、生きる力を育む指導の工夫

～自己の生き方について考えさせる探究的な学習～

「研究仮説」
地域の人と関わり、日常生活や地域社会の事象についての探究的な学習をすれば、学び方やものの考え方を効果的に身に付けることができ、自分の可能性に気付き、社会とどう関わって生きていくかを考える力が身に付くであろう。

「目指す生徒像」
・様々な事象に対して他者と関わりあいながら意欲的に取り組める生徒
・自分と向き合い、自分に自信をもてる生徒

「仮説、検証、まとめ、発表」を協力しながら学ぶ

「具体的な手だて」
・探究的な学習　・協同的な学習　・言語活動の充実
・地域人材、地域教材の活用と連携　・環境の整備
・教師の支援　・道徳の時間の充実

「育てようとする資質や能力及び態度」
・様々な事象への興味・関心　・基礎的な知識、技能　・思考力、判断力、表現力
・主体性、自発性　・コミュニケーション能力　・計画性　・他者への思いやり

Ⅳ　研究の方法

1　基礎研究

学習指導要領解説、評価方法等の工夫改善の資料（平成２３年７月 国立教育政策研究所）等から、今回の改訂で総合的な学習の時間に求められている新たな視点や課題の把握を行った。また、総合的な学習の時間を通して、生徒の力が伸びている学校の実践について研究を行った。本部会では、この学校の取組を基盤に、あらゆる学校で地域と関わる学習活動も実践できるようにするべく、課題や研究の進め方について考えた。

2　調査研究

２種類のアンケート調査を実施し、生徒に回答を求めた。実態調査のアンケートの種類は、次のとおりである。

・「防災と地域社会」…今回、生徒たちが学習を進める上で基盤になる課題について回答するもの

・「総合的な学習の時間」…仮説・検証・まとめ・発表を協同的に行う際に必要な能力（コミュニケーション能力、疑問に対する積極性など）に対して、「自分の考え」と「実際の自分」の二つを回答する形式のもの

3　実践研究

実態調査から把握した生徒の実態が、基礎研究で検討した総合的な学習の時間の授業を通してどれだけ変容したかを明らかにするべく、検証授業を行った。

4　研究のまとめ

成果と課題を明らかにし、報告書を作成。研究発表会で指導モデルを提示した。

Ⅴ　研究の内容

1　地域社会との関わりを通して、生きる力を育む指導計画の工夫

仮説で述べたように、本部会では「地域社会」＝「地域の人と関わりをもつ」＝「協同的な学び」と捉えた。そして具体的には、次のような関わりをもつこととした。

○　地域の課題・文化・歴史などに興味をもつ
○　班で協力し、互いの意見や考えを出し合う
○　地域の人・行政に携わる人から話を聞く、地域にアンケートをとる

今回、検証授業を行う学校は、「防災教育」を通した地域の方々、行政に携わる方々との交流が多い。実際には次のような取組を行っている。

◆港区立港南中学校における具体的な取組

【運河巡り】

港区から船を借り乗船。高浜運河、東京湾と周り、港南地域の特徴について知る。地域の特性である運河を活用しての防災教育

芝浦港南総合支所、防災ネットワーク（地域の防災連合会）、東京海洋大学と連携を図る。

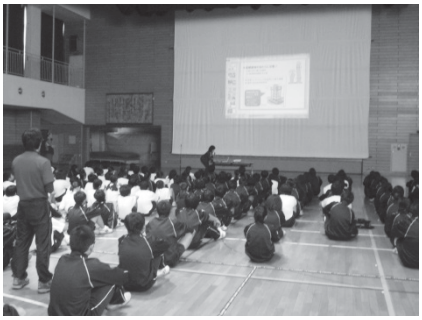
（写真１）

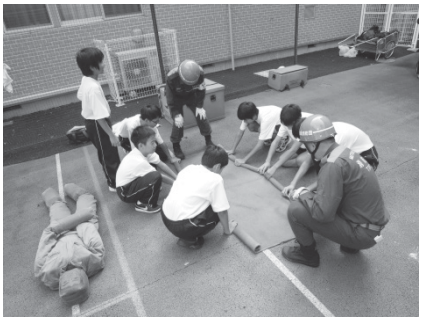
【プレ防災訓練】

１１月４日（日）に実施される港区総合防災訓練（港南会場）に向け、防災に関わる講話と防災訓練を行った。校区内には高層マンションが多くあり、実際に災害を想定して実施した。（写真２）は、全校生徒が体育館にて防災の説明を受けている様子である。（写真３）は、担架搬送訓練の様子である。全教職員もそれぞれ役割を担当し、生徒と共に参加した。終了後には情報交換を行い、課題を分析し、内容の改善を図った。

この取組においては、芝浦港南総合支所、防災ネットワーク、高輪消防署、高輪消防署消防団、高輪警察署、「有限会社　生活環境工房あくと（本校における防災教育に当初から連携を図っている企業）」等と連携した。

上（写真２）、下（写真３）





【港区総合防災訓練】

地域と連携を図った、防災訓練を実施。当日は約２０の役割分担ごとにブースをつくり、地域住民へ避難所運営に関わる説明を行った。住民代表の方から「何名避難しました」との連絡を基に、人数の確認を行う受付訓練や、アルファ米を用いた炊き出し訓練等を行った。本訓練には近隣小学校も参加した。

本訓練においては､プレ防災訓練における連携先に加え、千代田区、赤十字奉仕団、港区国際交流協会・港区社会福祉協議会、港区医師会など、他にも多くの機関と連携を図った。

（写真４）

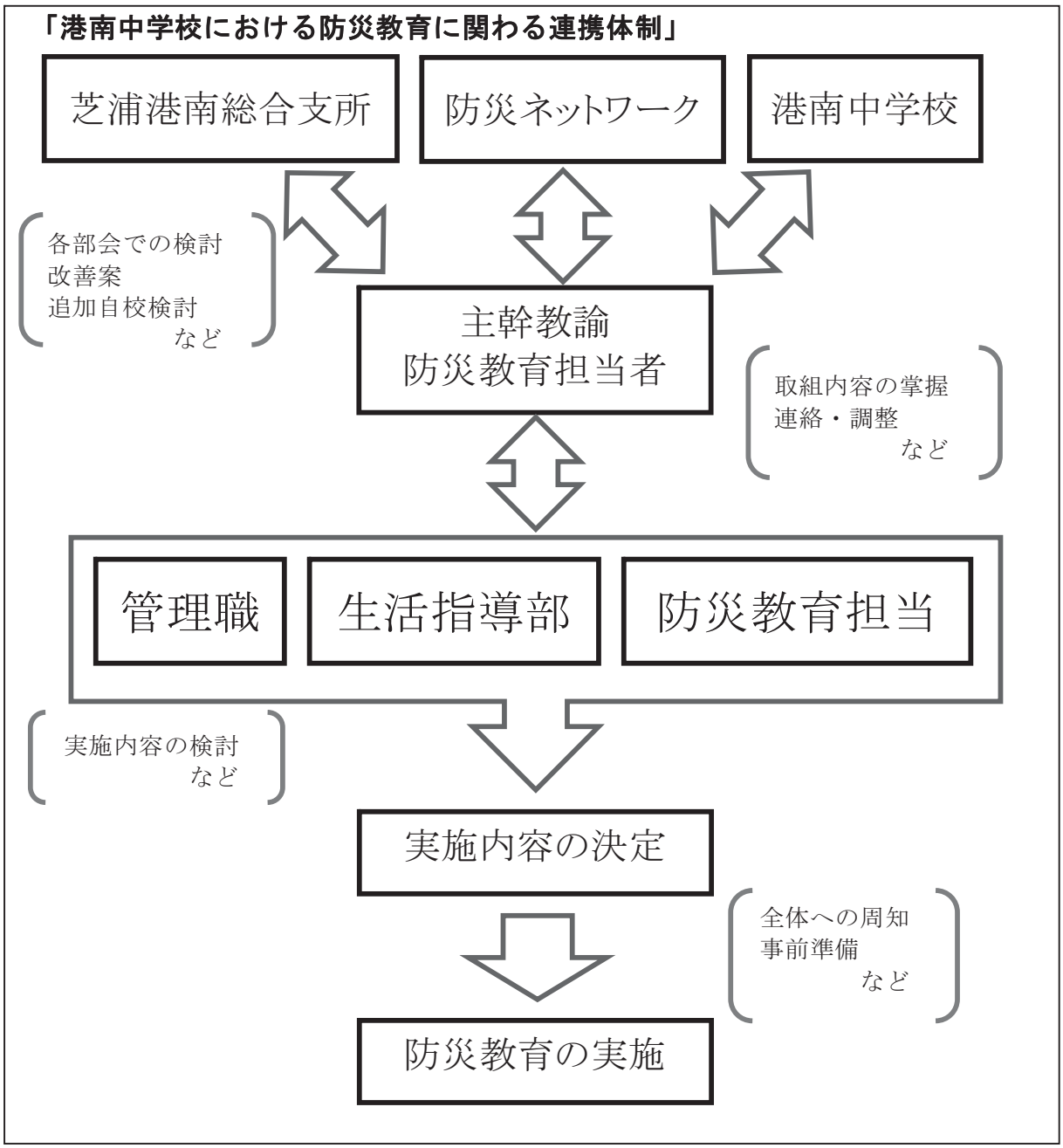
◆港区立港南中学校における防災教育に関わる地域や関係諸機関との連携の推進について

地域や関係諸機関との連携を基盤とする教育活動を推進するためには、学校を中心とした体制整備が必要である。

本校における防災教育の充実を図るため、地域の実態や学校の実態を把握したで上で、どのような活動が必要であるのか、共通理解の構築を図った。また、主幹教諭や防災教育担当者が窓口となり、地域や関係諸機関と定期的に連絡を取り合い、進行状況、活動内容などについて情報交換を行い、実施計画等の十分な検討を行った。

学校、地域、関係諸機関は、検討した実施計画等をそれぞれ持ち帰り、再度検討することで一層の工夫･改善を図った。本校における防災教育に関わる連携の様子を図でまとめたものが、〔図１〕である。

〔図１〕



このように学校を中心とした連携を基盤に、意図的・計画的に防災教育に取り組んでいることから、生徒は地域における防災について高い関心をもっている。この高い関心を、総合的な学習の時間への動機付けに昇華させ、「災害が起きた際の地域の問題点」についてグループ単位で考えさせることで、生徒の地域との関わりを更に深めることを狙いとした。また、地域の大手企業に、防災に関わる取組についてインタビュー等の調べ学習を行い、地域社会と交流することを通して、「地域の一員」としての自覚を意識させることも目的とした。

また、事前に「防災と地域社会」のアンケート調査として、東日本大震災が起きた際に、それまでの学校の防災教育がどのように役に立ったか、東日本大震災当日の体験談、防災に対してどのような考え方をもっているか、地域の一員としての自覚、自己理解等の実態把握を行った。

2　実態調査Ⅰ「防災と地域社会」

（1）質問紙

アンケート調査

＜防災教育について＞

Q１　3.11の時に、今までの防災教育は役に立ちましたか。　4　とても思う、3　思う、2　あまり思わない、1　思わない

Q２　Q１で４または３と答えた場合、どのような点が役に立ちましたか。

〔　　〕

Q３　Q１で２または１と答えた場合、どのような点が役に立ちませんでしたか。

〔　　〕

Q４　3.11の時の自分の体験を教えてください。

〔　　〕

Q５　現在、家庭において災害時の対策を備えている。　2　している、1　していない

Q６　Q５で２と答えた生徒は、どのようなことを備えていますか。　1　備蓄、2　はぐれた時の集合場所、3　緊急連絡方法

4　応急手当法、5　家具・家電等の転倒防止、6　その他

＜防災訓練を地域と合同で行うことについて＞

Q７　地域の一員であることを意識しますか。　4　とても意識する、3　意識する、2　あまり意識しない、1　意識しない

Q８　自ら判断し、行動することができたと思いますか。　4　とても思う、3　思う、2　あまり思わない、1　思わない

Q９　地域から中学生に期待されている役割があると思いますか。　4　とても思う、3　思う、2　あまり思わない、1　思わない

Q10　地域の人と触れ合う機会となりましたか。　4　とてもなった、3　なった、2　あまりならなかった、1　ならなかった

Q11　地域の人と触れ合う、関わることに大切さを感じますか。　4　とても感じる、3　感じる、2　あまり感じない、1　感じない

＜あなたが感じる地域について＞

Q12　自分の地域・地元は好きですか。　4　とても好き、3　好き、2　あまり好きではない、1　嫌い

Q13　自分の地域・地元の良いところを挙げることができますか。　4　たくさんできる、3　できる、2　あまりできない、1　できない

Q14　大人になってもこの地域・地元で暮らしたいと思いますか。　4　とても思う、3　思う、2　あまり思わない、1　思わない

＜あなたのことについて＞

Q15　自分の長所を理解していますか。　4　している、3　まあまあ、2　あまりしていない、1　していない

Q16　自分の短所を理解していますか。　4　している、3　まあまあ、2　あまりしていない、1　していない

Q17　自分の長所を伸ばせるように努力をしていますか。　4　とてもしている、3　している、2　あまりしていない、1　していない

Q18　自分の短所を克服できるように努力をしていますか。　4　とてもしている、3　している、2　あまりしていない、1　していない

Q19　将来の夢や目標はありますか。　2　ある、1　ない

＜将来について＞

Q20　自分の地域・地元が今後どうなってほしいですか。

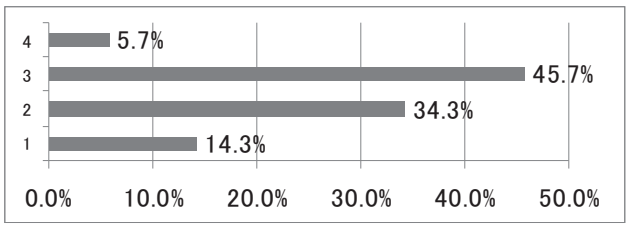
〔　　〕

Q21　大人になった際、自分の地域・地元にどんなことができると考えますか。

〔　　〕

（２）アンケート結果

Ｑ１　３.11 の時に、今までの防災教育は役に立ちましたか。



４　とても思う
３　思う
２　あまり思わない
１　思わない

Ｑ２　Ｑ１で４または３と答えた場合、どのような点が役に立ちましたか。

※　回答数の多い（類似を含む）ものに“◎”を付している。

・「お・か・し・も」といった避難方法　◎素早く動くことができた
・冷静に対処できた　◎慌てることなく避難できた
・パニックにならなかった　・自分の役割について行動することができた

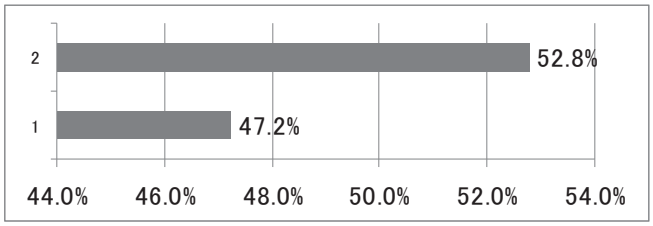
Ｑ３　Ｑ１で２または１と答えた場合、どのような点が役に立ちませんでしたか。

・現実感がなかった　◎そんなに大きな地震ではなかった
・余震の際の行動が分からなかった　・防災教育を受けなくてもできた気がする

Ｑ４　３.11 の時の自分の体験を教えてください。

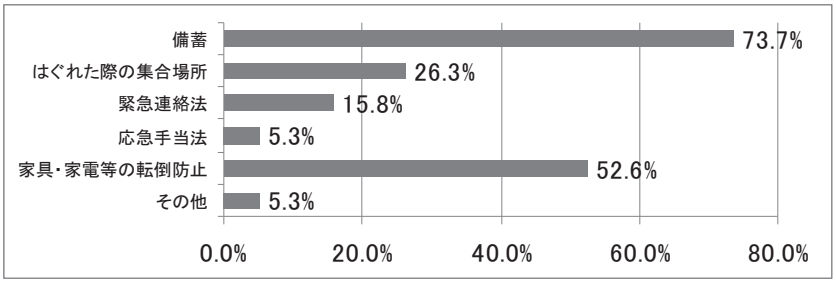
・保健体育の授業中であった　・階段を上っていた
・エレベーターが止まった　・机の上が散乱した
・ペットが過敏になった　・布団を被った
・体育館に避難した　・焦らず行動できた
・騒がず冷静になることが大切と感じた　・驚いた
・学校に残り、親と帰宅した

Ｑ５　現在、家庭において災害時の対策を備えている。

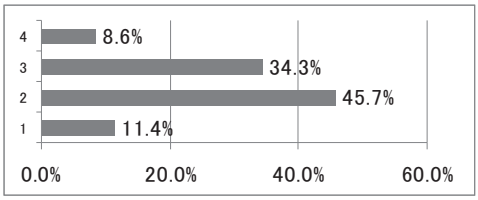


２　している
１　していない

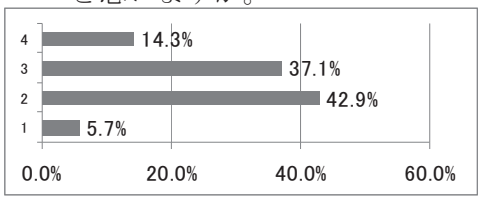
Ｑ６　Ｑ５で２と答えた生徒は、どのようなことを備えていますか。



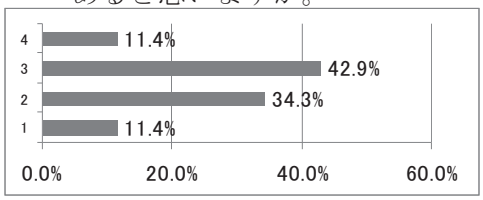
Ｑ７　地域の一員であることを意識しますか。



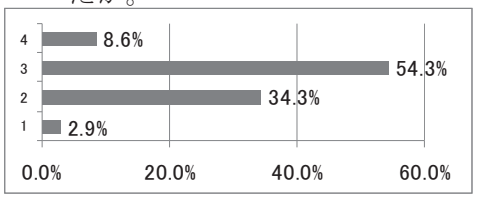
Ｑ８　自ら判断し、行動することができたと思いますか。



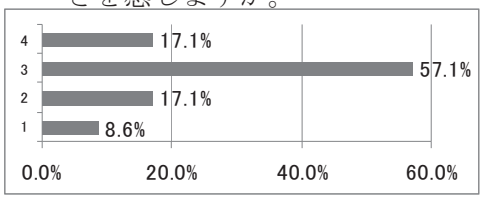
Ｑ９　地域から中学生に期待されている役割があると思いますか。



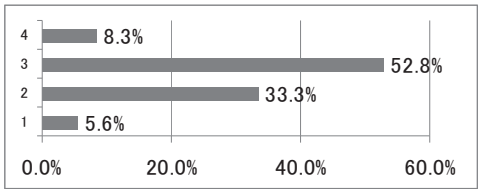
Ｑ10　地域の人と触れ合う機会となりましたか。



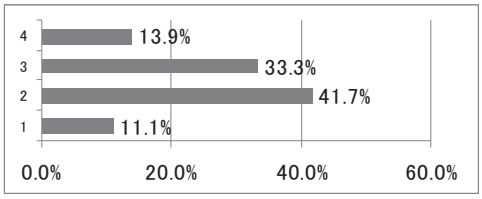
Ｑ11　地域の人と触れ合う、関わることに大切さを感じますか。



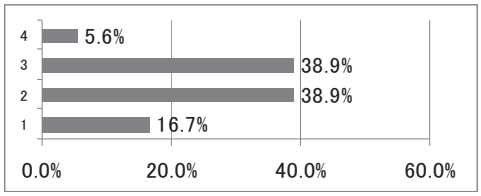
Ｑ12　自分の地域・地元は好きですか。



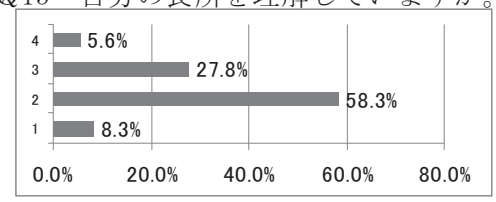
Ｑ13　自分の地域・地元の良いところを挙げることができますか。



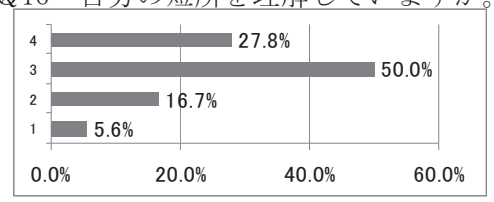
Ｑ14　大人になってもこの地域・地元で暮らしたいと思いますか。



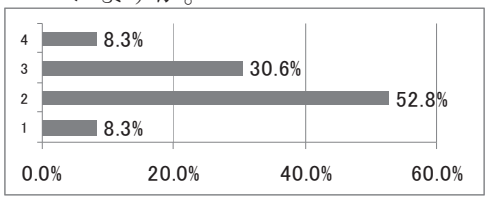
Ｑ15　自分の長所を理解していますか。



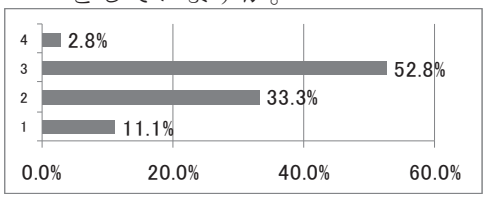
Ｑ16　自分の短所を理解していますか。



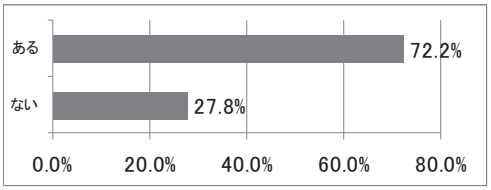
Ｑ17　自分の長所を伸ばせるように努力をしていますか。



Ｑ18　自分の短所を克服できるように努力をしていますか。



Ｑ19　将来の夢や目標はありますか。



４　とても思う
３　思う
２　あまり思わない
１　思わない

Q20　自分の地域・地元が今後どうなってほしいですか。

◎発展してほしい
◎もっと商業施設をつくってほしい
・水害が起こらないようにしてほしい
・ビルがたくさん建ってほしい
・このままでいてほしい
・分からない

◎活気にあふれてほしい
◎人々が触れ合う温かい地域になってほしい
・きれいになってほしい
・運河がきれいになってほしい
・あまり期待していない

Q21　大人になった際、自分の地域・地元にどんなことができると考えますか。

・ボランティア活動
・防災訓練の手伝い
・自治会に入る等、地域と関わりをもつ
◎分からない

・清掃活動
・地域行事への参加
・何もできない

（３）考察

実際に災害が起きた際に、避難訓練での知識が役に立ったと感じる生徒もいたが、訓練で得た知識が実践的でないと感じる生徒もいた。また、こういった機会を通して地域との関わりを感じたり、関わることが大切であると思ったり、地域が好きと感じた生徒も多く、地域がどうなったらより良い街になるかのイメージをもっていた。また、自分の長所は理解していないが、短所は理解し克服しようと努力している生徒が多く、将来の夢や目標をもっている生徒も多いことが分かった。

３　実態調査Ⅱ「総合的な学習の時間」

（１）生きる力を育む学習

仮説で前述したように、本部会では「生きる力」＝「社会とどう関わって生きていくか」＝「考える力」と捉えた。地域にあるさまざまな事象に目を向け、協同的に学ぶことで、社会との関わりについて目を向け、今後について考えさせる指導を行うことにより、考える力を育むことを考えた。本部会の「考える力」とは、情報を整理・分析する力、考察する力、検証する力、想像する力、表現する力などである。このような力が、今後の生活をよりよいものにしていく「生きる力」となる。

本研究の基盤となった学校も、検証授業を行った学校も、地域と学校がそれぞれの実態に合わせて連携を行っている。総合的な学習の時間を通して、地域と連携していること・できることに重点を置き、各々が興味をもてる内容をグループで学習することは、生徒の生きる力を育むことにつながる。総合的な学習の時間において、協同的な学習は、他者と関わりをもつための信頼関係を築く基盤となる。また、地域社会において目上の方や面識の少ない方との関わりをもつということは、今までの人との関わり方の経験値が試されるとともに、関わる力を伸ばす機会ともなる。

そこで、生きる力を育む学習に関わる生徒の意識調査を行った。生徒は「必要と思う＝自分の考え」と「身に付いているか＝実際の自分」の２観点で回答した。

（２）質問紙

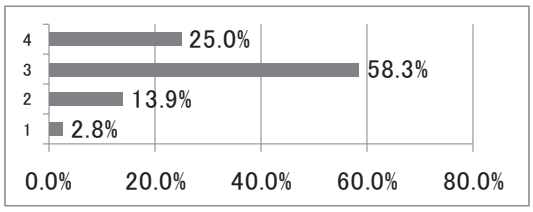
回答類型
- ４：あてはまる
- ３：ややあてはまる
- ２：ややあてはまらない
- １：あてはまらない

		自分の考え	実際の自分
Ｑ１	疑問に感じことに対して、積極的に調べ、疑問を解決する。	4－3－2－1	4－3－2－1
Ｑ２	課題解決に向けて積極的に取り組んでいる。	4－3－2－1	4－3－2－1
Ｑ３	地域の方などからの話を聞いて情報の共有化を図ることは、より良い生活を送るために必要なことである。	4－3－2－1	4－3－2－1
Ｑ４	地域の方などからの話を聞いて自己理解を深めることは、自己の伸張を図る上で大切なことである。	4－3－2－1	4－3－2－1
Ｑ５	地域の方などから話を聞いたり、自分でパソコンや本を用いて情報収集をしたりすることは、より豊かな人生を送る上で大切なことである。	4－3－2－1	4－3－2－1
Ｑ６	情報を収集して整理・分析を図ることは、自己理解を深める上で必要なことである。	4－3－2－1	4－3－2－1
Ｑ７	情報を収集して整理・分析を図ることは、共通理解を深める上で必要なことである。	4－3－2－1	4－3－2－1
Ｑ８	情報を整理・分析し、模造紙や新聞形式などでまとめたり、パソコンを用いてまとめたりすることは、必要なことである。	4－3－2－1	4－3－2－1
Ｑ９	相手に物事を的確に伝えるためには、分かりやすくまとめることが必要である。	4－3－2－1	4－3－2－1
Q10	相手に分かりやすく伝える表現力が必要である。	4－3－2－1	4－3－2－1
Q11	人間関係を築くことは必要なことである。	4－3－2－1	4－3－2－1
Q12	人間関係を築いた上で、物事に対して協力して解決していくことは必要なことである。	4－3－2－1	4－3－2－1
Q13	物事に対して計画的に取り組むことは大切なことである。	4－3－2－1	4－3－2－1

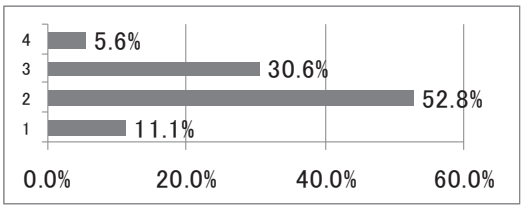
（３）アンケート結果

Ｑ１　疑問に感じたことに対して、積極的に調べ、疑問を解決する。

＜自分の考え＞

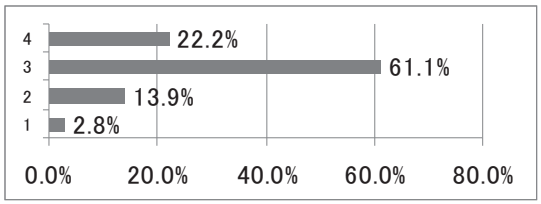


＜実際の自分＞

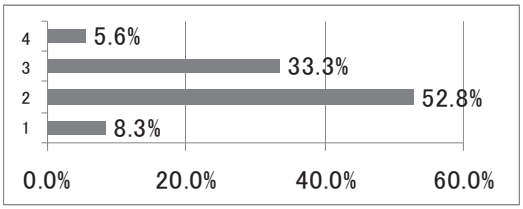


Ｑ２　課題解決に向けて積極的に取り組んでいる。

＜自分の考え＞

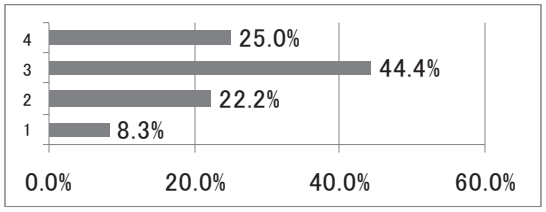


＜実際の自分＞

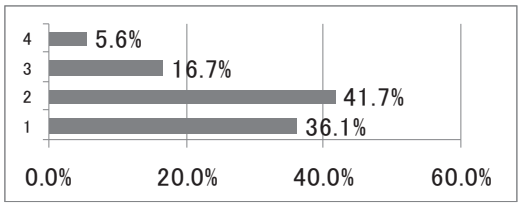


Ｑ３　地域の方などからの話を聞いて情報の共有化を図ることは、より良い生活を送るために必要なことである。

＜自分の考え＞

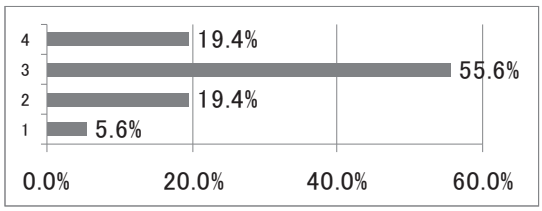


＜実際の自分＞

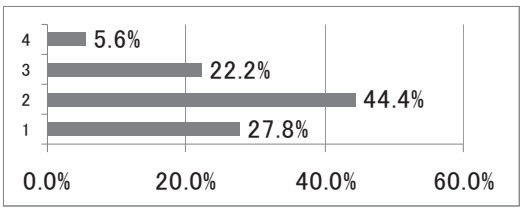


Ｑ４　地域の方などからの話を聞いて自己理解を深めることは、自己の伸張を図る上で大切なことである。

＜自分の考え＞

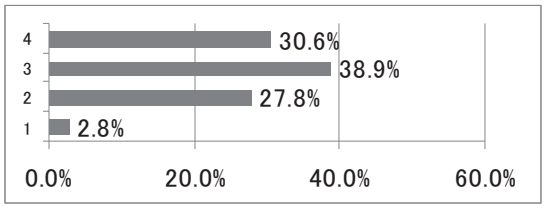


＜実際の自分＞

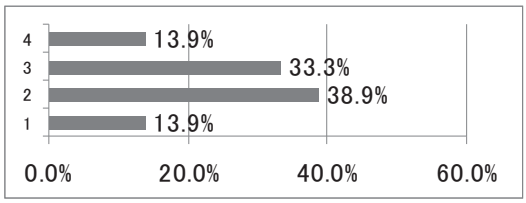


Ｑ５　地域の方などから話を聞いたり、自分でパソコンや本を用いて情報収集をしたりすることは、より豊かな人生を送る上で大切なことである。

＜自分の考え＞

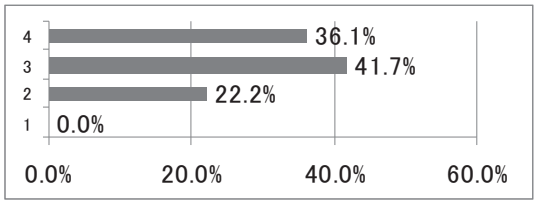


＜実際の自分＞

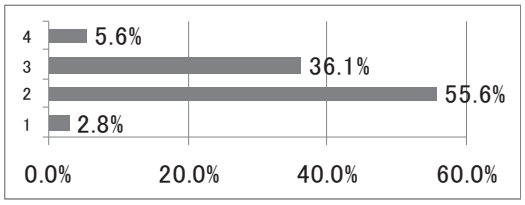


Ｑ６　情報を収集して整理・分析を図ることは、自己理解を深める上で必要なことである。

＜自分の考え＞

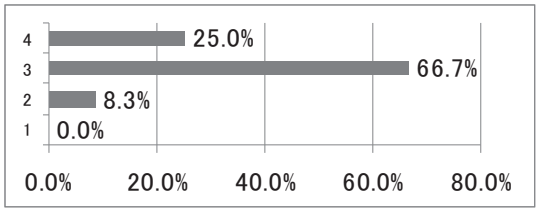


＜実際の自分＞

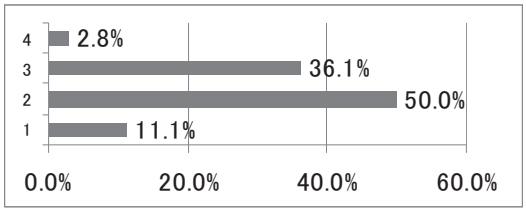


Ｑ７　情報を収集して整理・分析を図ることは、共通理解を深める上で必要なことである。

＜自分の考え＞

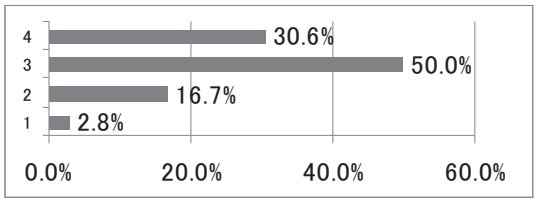


＜実際の自分＞

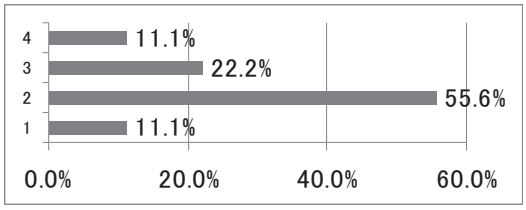


Ｑ８　情報を整理・分析し模造紙や新聞形式などでまとめたり、パソコンを用いてまとめたりすることは、必要なことである。

＜自分の考え＞

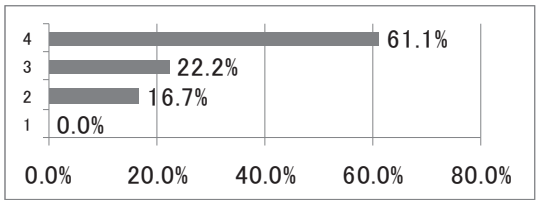


＜実際の自分＞

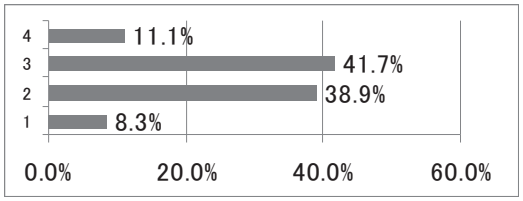


Ｑ９　相手に物事を的確に伝えるためには分かりやすくまとめることが必要である。

＜自分の考え＞

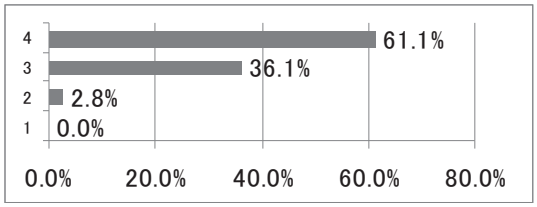


＜実際の自分＞

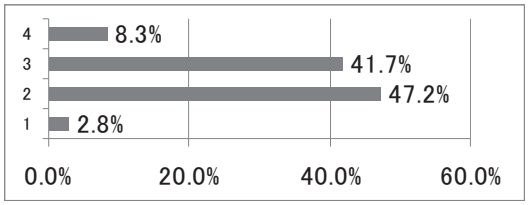


Ｑ10　相手に分かりやすく伝える表現力が必要である。

＜自分の考え＞

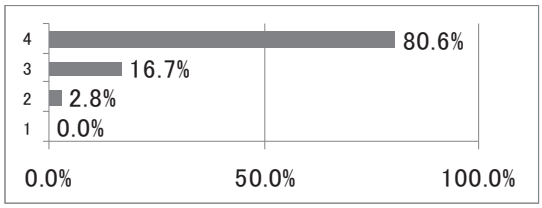


＜実際の自分＞

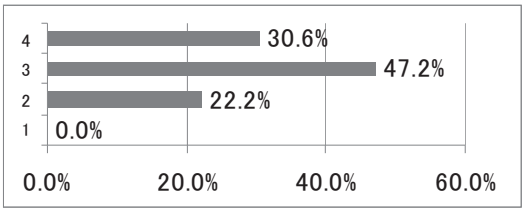


Q11　人間関係を築くことは必要なことである。

＜自分の考え＞

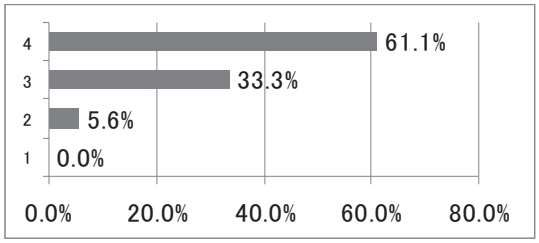


＜実際の自分＞

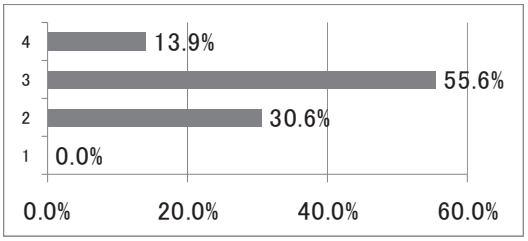


Q12　人間関係を築いた上で､物事に対して協力して解決していくことは必要なことである。

＜自分の考え＞

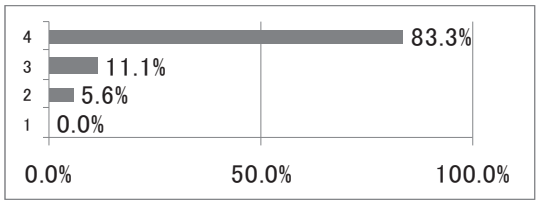


＜実際の自分＞

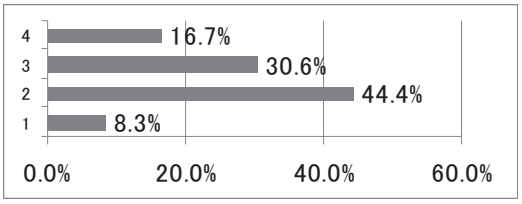


Q13　物事に対して計画的に取り組むことは大切なことである。

＜自分の考え＞



＜実際の自分＞



（４）考察

自己の成長を望んだり、課題解決に向けた自己の向上を図る必要性を感じたりする生徒が圧倒的に多かった。また、物事を分かりやすくまとめたり、分かりやすく伝えたりする表現力が必要であると感じている生徒も多かった。一方で、実際の自分は不十分であると感じている生徒も多くいるという結果が出た。総合的な学習の時間では、様々な活動を通して思考力・判断力・表現力を育成するだけでなく、コミュニケーション能力や課題解決能力を育成し、生徒の自己肯定感を高めていく必要がある。

４　学習計画の工夫

総合的な学習の時間における「協同的な学び」を通して、「考える力」を伸ばす探究的な学習が行えるよう、次の２点について指導の工夫を図った。

ア　地域社会との関わりを意識させる

地域社会にある事象について興味をもたせ、課題設定、課題解決学習を行うことで、自分が地域社会の一員であることを意識させ、自分が今後どう生きていくかを考えさせる。

イ　コミュニケーション能力の向上を目指す

班員との会話はもちろん、地域の人と関わることで、コミュニケーションをとる上で必要な力について考えるとともに、その力を伸ばしていく。

5　検証授業　（中学校第３学年）

（１）単元名「私たちの地域を守る　～災害時における取組と提案～」

（２）単元設定の理由

本単元は、大島町立第二中学校の総合的な学習の時間の取組である「地域研究発表会」における実践を骨子として構成したものである。この「地域研究発表会」は、島の自然や産業等を有効に活用し、生徒が興味・関心をもった課題について仮説を立て、検証していく学習活動である。検証するために、現地調査・インタビュー・アンケート調査等で地域と関わり、様々な知識や情報を得たのち、それらを冊子にまとめ、発表する。また、この取組は、同じ課題に興味をもった生徒で班を構成し、グループで行う。このような探究的な学習を協同で行うことで、思考力・判断力・表現力を伸ばしている。

本部会では、上記のような取組をどの学校でも行えるように研究を進め、検証授業を行う学校及びその地域の実態に合わせた授業計画を作成した。

今回、検証授業を行う学校では、「防災教育」を地域と協力しながら進めている。そのため、災害時（今回は大規模地震）において「地域とどのような関わりをすべきか」、地域の危険箇所を調べ「どのような防災ができるか」などを生徒自身に考えさせる。この活動を通して、様々な情報を整理・分析する資質や能力を身に付けさせる。また、研究グループと地域の人との関わりを通して、コミュニケーション能力なども伸ばしていく。そして、情報発信することで、社会とどう関わりをもって生きていくかを考えさせることを目指した。

（３）単元の目標

○グループ活動や地域の人と関わる際に必要な力を理解する。

○地域社会の実態を理解し、自らの生活と地域社会との関わり方を考えることができる。

①単元で育てようとする資質や能力及び態度

【学習方法に関すること】

ア　自分の経験や知識、講師の話等から適切に課題を設定する。

イ　相手や目的、意図に応じて論理的に表現する。

【自分自身に関すること】

ウ　自分の目標を明確にし、課題の解決に向けて計画的に行動する。

エ　自らの生活の在り方を見直し、地域社会との関わりを日常的に実践する。

【他者や社会との関わりに関すること】

オ　互いの特徴を生かし、協同して課題を解決する。

カ　地域の実態を知り、より住みやすい地域を目指した考えをもてる。

②単元で学ぶ内容

ア　地域の防災計画

イ　企業、事業所等それぞれの防災への取組と対策

ウ　よりよい地域の防災計画を目指した創造的な取組

（４）単元の評価規準

評価の観点	よりよく問題を解決しようとする資質や能力【質】	学び方やものの考え方【学】	主体的・創造的、協同的に取り組む態度【態】	自己の生き方【生】
単元の評価規準	地域の防災計画の現状と課題・問題点からよりよい防災計画を発信するための課題を設定している。 【①－ア】【②－ア】	地域の防災計画、地域の実態、企業、事業所等の取組から得た情報を、整理・分析し、分かりやすくまとめている。 【①－イ】【②－ア】【②－イ】	他の生徒と協力して調査をし、地域の様々な立場の人と積極的に関わることで課題を解決している。 【①－ウ】【①－オ】【②－イ】	地域の実態を知り、自己の関わり方を考えるとともに、実践している。 【①－エ】【①－カ】【②－ウ】

（５）指導計画（８時間）

時	活動	指導上の留意点	評価規準
【活動１：課題の設定】「地域の現状を知る」			
1	・これまで取り組んできた防災教育の振り返りを行う。 ・外部指導者に来校していただき、防災教育について講話をしていただく。（外部講師予定：芝浦港南総合支所、防災ネットワーク） ・得た情報から課題設定をする。	・小学校、中学校で取り組んできた防災教育の内容を振り返る。 ・現時点で港区、防災ネットワークがどのような取組をしているのか理解する。また、気になった点等は次回につなげるため記録をきちんとさせておく。 ・興味をもって意欲的に取り組める課題を設定させる。	【質】
2	・地域の情報を集め、確認をする。 ・生徒向けアンケート「防災と地域社会」を実施する。	・地域を振り返らせ、自分たちの住んでいる町の特徴を見付け、考えを共有する。	【質】
【活動２：情報収集】「現地調査等」			
3	・仮のグループを作成し、それぞれの意見を出し合い、地域の防災の在り方について更にグループ分けをして各班で調べ学習を行う。	・生徒の声を大切にし、興味をもって意欲的に取り組める課題を設定させる。 ・他者の意見を尊重し、改善点などがあれば意見を提案し、全体の考えをまとめていく。 ・次回の指導内容を説明し、必要な事柄を準備させておく。	【学】 【態】

4・5	・地域に出て、調べよう。 ・地元企業等の協力を得て、防災の取組についてインタビュー等を行うとともに、自分たちで実際に地域をまわり、気付いたことを情報として収集する。	・地域に出る場合には安全に十分な配慮をする。 ・コミュニケーション能力を育成する場面でもあるので、接遇マナー等について事前指導を行っておく。 ・分析に向けて情報を整理し、記録させる。	【学】 【態】
【活動３：整理・分析】「地域の現状をまとめる」			
6	・課題解決に結び付く情報の整理・分析を行い、今後の具体的な活動について考えを出し、まとめる。	・相手を意識した発表ができるようまとめさせる。 ・集めた情報から見えてきた、答えや考えもまとめさせる。 ・自分たちがどのように地域社会と関わって生活をしていくのか、社会の一員として何ができるかなどについてまとめる。	【学】 【生】
7			【学】 【生】
【活動４：まとめ・表現】「学校から地域への発信、提言」			
8	・協力いただいた団体等を招待し、報告会を行うとともに、参加団体から講評をいただく。 （参加団体等） ・芝浦港南総合支所 ・防災ネットワーク ・保護者 ・地域	・他者の発表をしっかり聞き、考えを深める。自分ができることは実践させていく指導を行う。 ・受けた評価を、改善に向けたさらなる課題とする。	【学】 【生】

本部会の研究の柱である「地域社会との関わり」として、活動２の４・５時間目に行う「近隣企業へのインタビュー」と活動４の８時間目に行う「学校から地域への発信、提言」の授業の展開を紹介する。また、「企業へのインタビュー」に向けては、事前に次のような取組を行った。

（６）近隣企業への訪問

当該生徒は、１年次の職場訪問においても近隣企業を訪問している。今回の近隣企業への訪問については、防災に焦点を当てたものであるので、次のように班編制を行った。

（地域の風景：高浜運河）

①　班編成の方法

ⅰ　生徒全員に港南地域の地図を配布する。

ⅱ　防災上危険と思われる場所に優先順位を付けさせる。

ⅲ　優先順位の付け方を基に、４～５名のグループをつくる。

②　「①」の方法を行った理由

本校の校区には

ⅰ　高浜運河と海に囲まれており、どこかの橋を通らないと往来できない。

ⅱ　高速道路や東京モノレール、新幹線の線路に囲まれている。

ⅲ　高層マンションが多く建てられている。

といった、特徴があり、地震等の災害発生時には、特有の被災状況を示す可能性がある。そのため、類似した視点をもつ生徒同士で班編成を行う方が、共通意識をもたない班よりもコミュニケーションが多くとれ、生徒の自主的な取組や意見の活性化につながり、最終的に自己理解を深めることにもつながるものと考えた。

③　訪問した企業（４社）

４社とも、中学校から徒歩１５分圏内にある大手企業である。社員数も多く、災害が起きたときの対策が必要と思われる。今回繁忙期の中、４社の企業に本研究を理解をいただき、その企業の協力により、取組を実施することができた。

	事業内容
Ａ社	オーディオ・ビデオ機器、テレビ、情報・通信機器、半導体など
Ｂ社	加工食品、水産、冷凍・冷蔵など
Ｃ社	文房具、オフィス家具などの製造、販売など
Ｄ社	ホテル運営など

④　企業訪問におけるインタビュー内容

質問事項については、今回の研究調査の目的に鑑み、本研究部会にて決めた。その理由は、共通の質問を中心にインタビューを行うことで、各企業の防災教育の取組の違いを明確にするためである。生徒の班会議においても、共通の質問事項についての確認を行った。また、その質問が訪問先に適切であるかどうかについても検討させ、質問項目の追加、質問内容の改善を行った。自分たちの班から共通質問以外を出させることで、職場訪問に取り組む意識を高めるとともに、より充実した職場訪問にすることをねらいとした。

企業の防災教育の取組と災害対策への質問項目表

※企業への職場訪問日（聞き取り調査）　平成 24 年 11 月 19 日（月）

企業名　　班長

「質問項目」

1　東日本大震災（3.11）の際に実際に行った避難について教えてください。

例：帰宅困難者の受け入れを行った

仕事の復旧はいつから行いましたか　　など

2　どのような防災教育を社内で行っていますか。

3　貴社が行っている避難訓練について教えてください。

①地震、火災、津波等の避難訓練に参加していますか

②社員の参加規模はどれくらいですか

③品川、港南地域の避難訓練に参加していますか

4　災害が起きた時の社員の対応について教えてください。

①連絡系統はどのようになっていますか

（「災害時の役割分担」「待機」「帰宅」「家庭への連絡」等の取り決めは、どの程度まで考え、実施しているのですか）

②屋外へ避難しなくてはならなくなった際、第一次避難場所までの避難経路を確認していますか

5　今後災害が起きた際に、帰宅困難者に向けた対策を考えていますか。

6　食糧等の備蓄はしていますか。

①何人分

②何日分

③地域分はありますか。帰宅困難者分はありますか。

7　東日本大震災（3.11）を受けて、ボランティア活動など会社として社会貢献などしていることがあれば教えてください。

8　現在、重点的に取り組んでいる防災対策について教えてください。

9　今後、取り組んでいこうと思っている防災対策について教えてください。

10　防災対策について、地元の中学生に期待することがあれば教えてください。

⑤　事前学習「企業訪問前班会議」（３時間目／８時間）

日時　平成２４年１１月１９日（月）　１４時３５分～１５時２５分

目的　ⅰ　訪問する企業の概要を知るとともに、質問事項の検討を行い、共通理解を図る。

ⅱ　防災教育の取組について考える機会とする。

	教師の働きかけ	活動	指導上の留意点
導入	・防災教育の意義を話す。 ・本時のねらいを話す。各係分担を決め、質問事項の確認を行う。	・教師の話を聞き、防災教育の振り返りを行う。	・事前アンケートは、研究員が作成したものを原案とし、各班で検討を行ったものを企業訪問時に用いた。
展開	・各係を決めさせる。	・各係（班長、職場訪問時記録、写真）を決める。	・仕事内容を確認させる。
	・質問事項の検討を行い、当日の質問事項を決定させる。	・質問事項を受け取ったら、自分たちが訪問する企業に適した質問内容かどうか各班で検討する。 ・一つ一つ質問内容を確かめ、適当かどうか判断する。 ・質問事項を決定する。 ・質問が決まった班から、現地調査時を想定した練習を行う。	・質問事項は必要に応じて追加・修正を行い、改善案にて実施する。
まとめ	・各係の担当の確認を行う。 ・質問内容の確認・見直しを行い、追加・修正等があれば出させる。	・各係の担当の確認を行う。 ・質問内容の確認・見直しを行う。	・１週間程度、質問事項の見直しのための期間をとる。

評価　・質問事項の検討を行い、訪問する企業に適切な質問事項を作成できたか。

＜授業を終えて＞

生徒は、事前調査にて調べた企業の概要と本部会で検討した質問事項を基に、班会議を行った。結果として、各グループとも本部会が作成した質問事項となったが、一つ一つの質問について丁寧に吟味を行うことができた。

班会議にて質問事項を共有したことにより、企業の防災への取組について興味・関心が高まり、職場訪問への期待が高まっていた様子であった。また、自分が訪問する企業以外に対する興味・関心も高められていたように感じた。

⑥　近隣企業への訪問を終えて

＜生徒の様子＞

ⅰ　出発前

生徒は各企業がどのような防災活動を行っているのか興味をもっていた。職場訪問当日の朝、最終確認としてマナー指導の他、調査活動時のあいさつ、話し方、受け答えの仕方などについて再度指導を行った。

Ｂ社の訪問時の様子

ⅱ　活動中

生徒は、各企業防災教育担当者が対応。帰校の報告と企業からの連絡でわかったことであるが、生徒は一生懸命企業に調査活動を行い、企業の防災教育について理解を図ろうと意欲的に取り組んでいた。企業側も、生徒からの質問に対して丁寧に答えてくださった。また企業の現時点での防災に係る取組と今後の活動について、十分に話をしてくださった。

Ｃ社の訪問時の様子

ⅲ　帰校後

生徒の表情はとても満足げであった。班長が班を代表して帰校報告を行った。各企業の防災教育の取組についての他､｢様々な防災グッズを見せてくれました｡｣｢災害対策用設備を見せてくれました｡｣などの報告もあり､生徒たちは各企業が現在進行形で積極的に防災教育に取り組んでいることを学んできた。職場訪問の後、各班８分程度で報告を行い、事後のアンケート調査のとりまとめ、班でのアンケート結果の共有、企業の防災教育から学んだこと等、今後の取組について確認を行った。

＜分析＞

生徒は、どの企業も東日本大震災時の経験及び海・運河に囲まれた港南地域という地域の特徴から、防災に対して「備蓄食料は３日分保管している。」「定期的な避難訓練の実施」など、万全の体制で取り組んでいるであろうと仮説をたてていた。実際に企業を訪問し調査活動を行うと、特色ある活動と防災対策は現在もなお進行しつつあることが分かり、大変勉強になった様子であった。また、普段自分たちの学校で行われている避難訓練や防災訓練がとても充実していたことが分かり、防災教育の重要性について理解を深めることができた。

ある企業では､｢災害備蓄のスペースを確保できないので、どのように３日分の備蓄を確保するのか検討中である｡｣という話を聞くことができた。生徒はその話を聞き、「なぜ企業がそれを行うことが難しいのか｡」を考える場面が生まれた。このように、職場訪問等を通して感じたこと､疑問に思ったことに対して各班で意見を述べ合い､｢自分たちはその課題に対してどのように解決を図るか｡｣といった協議を行い、クラス・学年等で発表することで、考えを共有し次の段階へ進むことができた。このような活動は探究的な学習を行う上で大切であることを、改めて確認することができた。

（７）報告会「これからの防災の在り方について提案しよう」（８時間目／８時間）

日時　平成２５年２月１日（金）　１３時３５分～１４時２５分

目的　ⅰ　各班の防災に関わる提案から新たな考えを知るとともに、自己の考えを深める。

ⅱ　講師の方の話を聞き、自分たちが取り組んできた内容が、とても大切であることを実感する。

	教師の働きかけ	活動	○指導上の留意点　◆評価規準
導入	・これまでの授業の振り返りを行う。	・教師の話を聞き、これまでの取組を振り返る。	○３年間の防災教育を振り返り、本時の活動にスムーズにつなげられるようにする。
展開	・各班の意見を聞かせ、社会との関わりについて考えさせる。	・各班発表（各班６分） ①地域の危険箇所について ②企業の防災教育について ③地域、学校への提案 ・発表後、分かったこと、再認識したことなどを記入する（２分）。	○地域社会との関わりは、生活していく上で欠かせないことを強調する。 ○各班の提案は、自分たちの考えを伝えるだけでなく、なぜそれが必要なのか根拠を明確にして説明させる。 ◆①－イ ◆②－ウ、①－カ
	・芝浦港南総合支所、防災ネットワークから講評をいただく。 （計１０分）	・講師の講評を聞き、防災について理解を深める。	○３年間の総まとめとして、これまでの活動の振り返りを行う。また、自己理解を深めさせるよう支援する。 ◆②－イ
まとめ	・防災教育の大切さ、地域との関わりについて話す。	・これまでの授業を受けて、自分がこれからどのように地域社会と関わりをもち生活をしていくかについて記入する。	○今後、自分が地域社会とどのように関わるのかを考えさせながら記入させる。

授業観察の視点

・各班の発表を聞き、地域に住む一員として自分は地域に何ができるか、どのように行動していかなければならないかについて考えることができたか。

・ワークシートに自分の考えを記入することができたか。

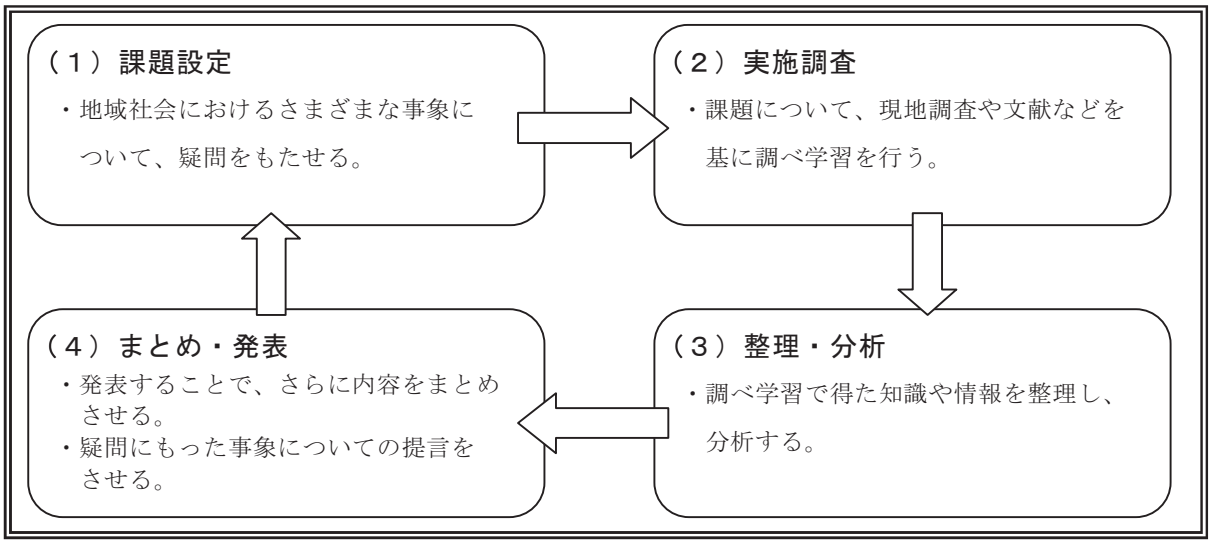
Ⅵ　研究の成果と課題

1　成果

本研究を通して、「地域社会との関わり」が「生きる力」を育み、それは同時に「自己の生き方」を考える上で効果的であることが検証できた。地域社会との関わりは、生徒たちに新たな知識や知らなかった世界を見せることにつながり、よい刺激となった。この時に得た新たな知識等を整理・分析、考察し、まとめ・発表を行うといった言語活動の充実を通して、思考力・判断力・表現力を高めることができた。また、学習活動を協同で行うことで、生徒のコミュニケーション能力を高めることもできた。こうした力を身に付けていくことで、生徒は自分に自信をもち、自己の生き方についてより深く考えることができ、結果として、地域社会との関わりについても考えられるようになると捉える。

以上のことより、この１年間の研究の成果として、「地域社会との関わりを通して、生きる力を育む」学習活動のサイクルを提案したい（〔図２〕参照）。この活動は、探究的な学習であるとともに協同的な学習であり、生徒の興味・関心を高め、積極的に学ぶ姿勢を育てることができる手立てとなるであろう。

〔図２〕



2　課題

（１）　学習活動の確立

本研究は「地域社会との関わり」が重要となる。地域社会や地域人材と学校側が交流して関係を築き、このような学習活動を行うことができる環境を確立される必要がある。

また、生徒が意欲的に取り組むためには、生徒の自由な発想を教師が丁寧に取り上げることが重要である。教師は地域・学校の実態に合わせて、「何」を「どの程度」取り組ませていくのか、生徒と共に考えていくことが必要である。

（２）　評価方法の確立

課題設定、実施調査、整理・分析、発表と多くの学習活動があり、それぞれの場面での評価が大切であるとともに、評価の観点を指導する教師の間で共通理解することが必要である。

また、この学習活動における生徒の変容についても、学習全体を通して評価していくことが大切である。

平成２４年度　教育研究員名簿

中学校・総合的な学習の時間

地区	学　校　名	職名	氏名
港区	港南中学校	主幹教諭	◎小出　和正
大島町	第二中学校	教　　諭	○飯塚　祐子

◎　世話人　　○　副世話人

〔担当〕　東京都教職員研修センター研修部教育開発課
統括指導主事　　中嶋富美代
東京都教育庁指導部指導企画課
指　導　主　事　　福田　忠春

平成２４年度
教育研究員研究報告書

中学校・総合的な学習の時間

東京都教育委員会印刷物登録
（平成２４年度第２４３号
平成２５年　３月）

編集・発行　東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地　東京都新宿区西新宿二丁目８番１号
電話番号　（０３）５３２０－６８８２
印 刷 会 社　株式会社　イマイシ